

畳製作

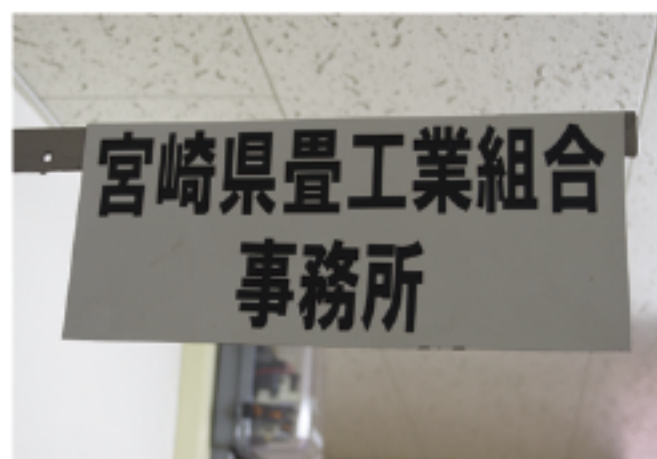
●実技指導テーマ

競技大会や技能検定の課題を利用して、手縫いで畳を製作できるまでの技能習得

ものづくりマスターの派遣要請の背景

畳製作は、昭和の高度成長期の頃から機械化が進み、昔ながらの手縫いで仕事をする機会は、今ではほとんどの畳店でなくなっています。20年以上の経験を持つ職人でも、自ら率先して学ばない限り、手縫いの作業を経験することがありません。しかし、畳製作の基本は手縫いにこそあり、そこに様々な技術・技能が集約されていることから、技能の向上や応用においても、手作業を学ぶことには大変に意味があります。当組合では、若手職人の技能教育に力を入れている中でこの制度を知り、ぜひ活用したいと思い、ものづくりマスターの派遣を依頼しました。

●派遣先



宮崎県畳工業組合
〒880-0902 宮崎市大淀3丁目5番16号
南宮崎駅前ビルE棟2階

派遣先概要

理事長：松山 寛
組合員数：58名
組合技能士数：51名



指導期間／回数	平成26年6月3日～8月18日のうち4回
指導実施場所	宮崎県技能検定センター
受講者数・指導職種	16名・畳製作

●カリキュラム

日数	日時	指導内容
1	6月3日(火)	畳の寸法取り、寸法の割出し及び割付け
2	6月4日(水)	框裁断、平差し縫い
3	7月17日(木)	平差し縫い、返し縫い
4	8月18日(月)	返し縫い、畳の敷き込み

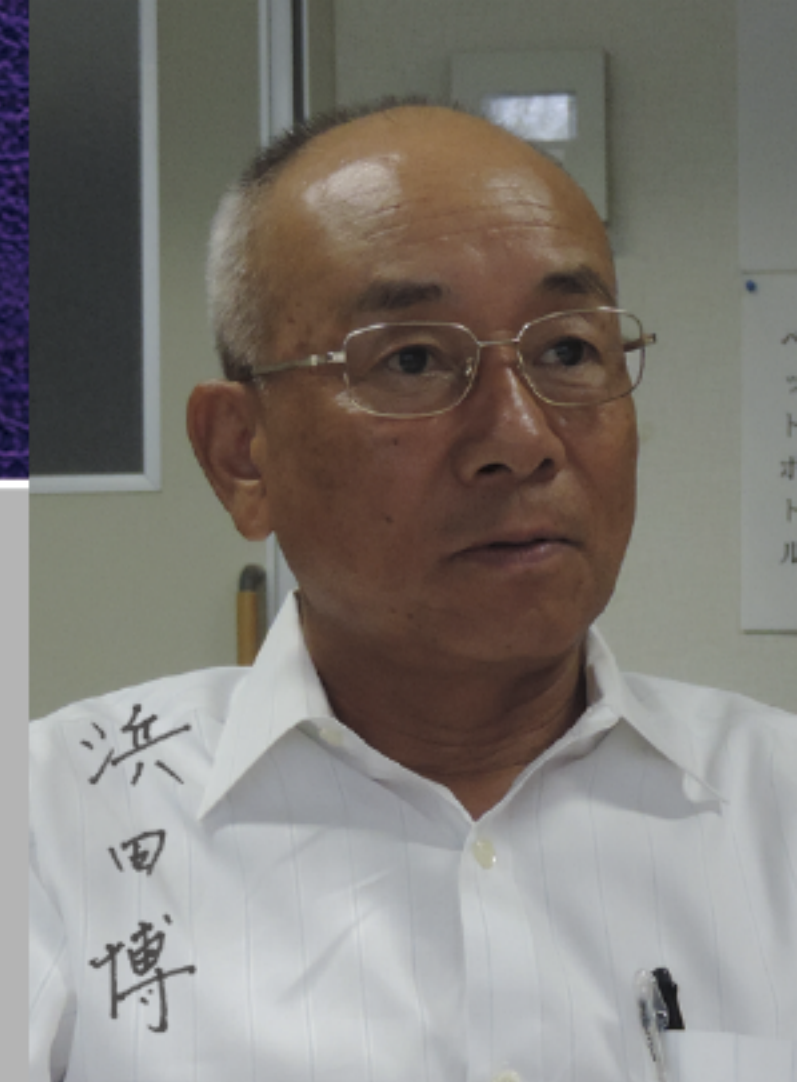


👑ものづくりマスター 浜田 博(はまだ ひろし)

昭和24年11月24日生まれ。昭和53年度 1級技能士(職種「畳製作」・畳製作作業)取得。
昭和54年職業訓練指導員認定。
平成25年9月13日「畳製作」職種でものづくりマスターに認定。

●指導ニーズの把握方法

依頼を受けた宮崎県畳工業組合の松山理事長とも協議して、同組合で取り組んでいる後継者育成の方針や、これまでに実施された技能講習の内容を把握することから始めました。カリキュラムは、畳製作に関し、過去に出題された技能検定や競技大会の課題を参考にして、手縫いで1枚の畳を仕上げる工程を基本としました。



昔ながらの手縫いの技を伝えて 技術の向上と畳文化の継承に繋げる

工夫したことは？

畳1枚を手縫いで仕上げる工程には、寸法を測り、畳を切り、框(畳のヘリがついていない部分)を縫って完成させるところまでに様々な技能が含まれています。やってみると、自分の得手不得手が分かってきますので、時間がかかってしまうところは、なぜそうなるのかなど、自らの実力を把握し、不得手を改善していけるように、また、実技では個別に指導できるような環境を作りました。

苦労したことは？

手縫いの経験がほとんどない若者に、1日や2日の講習でその全てを伝え、身に付けてもらうことは到底できないのですが、丁寧に繰り返し指導していくことを心がけました。受講者数が多いときは、私だけでなく、指導の補佐を付けてもらうように依頼し、協力体制をとってもらいました。

特に印象に残ったことは？

予想外の動きをしたり、意外な質問が出たりしたことがありました。考えてみれば、これまでに経験したことのない作業に取り組むのですから、無理のないことなのでしょう。指導する立場としては、根気よく、やはり1つひとつ丁寧に伝えていくことが大切であると感じています。

👑今後 反映させたい ことは？

同じ材料を使って製作しても、作り手によって仕上がりには微妙に違いが出てきます。機械でも手縫いでも同様です。大事なことは、畳を敷く場所に依じて、その場に最も合ったものとなるように考えながら仕上げていく力を付けることです。技術に加え、段取りよく進めていく技量も必要ですので、受講後も常に自らを高めていく気持ちが持てるような「気構え」も伝えていけたら、と考えています。

受入れ担当者の感想

受講者の感想

●ものづくりマスター制度を知ったきっかけ

ものづくりマスター制度は、宮崎県職業能力開発協会の関係機関参集による説明会を通じて知りました。当組合では日常的に技能講習を実施しており、会場の1つが同協会と同じ場所にあることから、さらに詳しい情報もいち早く知ることができ、ものづくりマスターの派遣に踏み切りました。



松山 寛さん

●ものづくりマスター派遣導入に当たり、内部調整で苦労したことは？

私どもでは、お客様に良い畳をご提供することが最も大事なことだと考えており、日頃から組合員の皆で協力して、業界全体のレベルを上げていくことを話合っていますので、この取り組みを推進することに苦労はありませんでした。ただ、多くの畳店が少人数で営業していますので、受講者を送り出すことは、各店に負担をかけることとなります。そこで、より有意義な講習となるように、開催する側はもちろん、受講者にも時間を大切に真剣に取り組んでもらえるような働きかけに注力しています。

●ものづくりマスター制度活用が一番のメリットは？

現在の畳製作は機械を使って行うことが大半ですが、手縫いの技を求められることがありますし、作業の流れの意味を知るうえで、手縫いを学ぶことが大切です。また、新たな製品づくりやより良い製品づくりを目指すとき、手縫いの技術が身に付いていれば、そこから応用させて発想することもできるなど、幅広い観点から仕事に役立ちます。この手縫いの技術をもものづくりマスターから学べるのですから、とてもありがたいことです。さらに、他店の同世代の仲間の作業の様子に触れられることも、技能講習のメリットだと思います。



●受講の動機

日常の仕事では機械しか使わないため、どうやって手で縫えばよいのか分かりませんでしたし、畳職人として、身に付けておきたい技術・知識を修得したいと考え、受講しました。将来的には、畳製作の技能検定を受検したいと思っています。



●スゴイと思ったことは？

講師の方々の針運びと、針を持たない方の手の使い方に感銘を受けました。同時に、手縫いの畳は、機械で作ったものと見栄えがずいぶん異なることにも驚きました。四角い畳以外の円形や三角形の畳については、手縫い以外で作ることはできず、これから畳を広めていく色々なアイデアにもつながり、受講して本当に良かったです。

●特に参考になったことは？

手縫いの技法として、例えば、畳床を切るときの包丁の角度、返しわらの入れ方、床薄べり平刺しの糸の締め方など、匠の技を間近で見られたことです。また、手縫いの技法は、機械で畳を製作するときも参考になります。自分の職場では学べないことを教えていただいたことに、大変感謝しています。



👑「ものづくりマスター制度」活用のアドバイス

受入れ担当者より

若い職人の技能向上に力を入れている組合にとって、この制度は大変に意義のあるものですので、ぜひ活用されることをお勧めします。また、「私たちの業界には、ものづくりマスターと呼ばれる熟練技能者がいて、その人たちが後進の育成に力を入れている」ことをお客様にアピールできる機会にもなると思います。

受講者より

試験勉強のためといった心持ちで始めた「畳の手縫い」技能は、合格したら恐らく忘れてしまうでしょう。しかし、ものづくりマスターからご指導いただく中で、この素晴らしい技能は、継承しなければいけないと考えるようになりました。技能検定試験の合格は職人としてのゴールではありませんので、今後はこの技能を忘れないように、後進に指導ができるくらい、ブラッシュアップしていきたいと思っています。

ものづくりマスターより

指導者としては、粘り強く教えることが大切です。また、自分のやり方が全てではありませんので、そのことを念頭に置いて指導に当たることが大切ではないでしょうか。受講者の方は、まず自分で学んで、自分自身を高めようという姿勢を持つことが大切だと思います。素直な心を持って学ぶことは、技だけでなく、人としての成長にもつながると信じています。

コーナー担当者より

若年者のものづくり離れが進んでいると言われる中、宮崎県畳工業組合さんや、ものづくりマスターの浜田さんのように、後継者の育成に使命感を持って熱心に取り組んでおられる方々とこの制度に取り組めたことを、とても意義のあることと感じています。全国的にもさらに活用が広がることを期待しています。